日本バプテスト連盟定期総会・日本バプテスト連盟選挙制度に係る調査（ダイジェスト）

作　　成：総会検討委員会（以下「当委員会」という）
調査期間：2020 年 3 月 18 日～2020 年 4 月 24 日
調査方法：主に自由記述アンケート方式
回答数量：加盟教会伝道所数 320 件中／回答 122 件（38%）

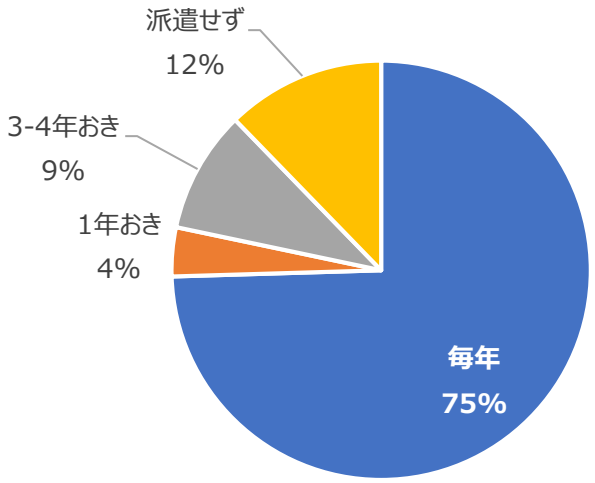
この調査レポートは、2020 年 2 月 24 日当委員会の議（議事録公開済）に基づいて実施した、日本バプテスト連盟（以下「連盟」という）定期総会及び選挙制度に関するアンケートを集計・要約したものです。当委員会と致しましては本調査に留めることなく引き続き連盟加盟教会のご意向を確認しつつ、提言を取りまとめて参る方針です。

１．集計情報の偏差についての注記

調査にご協力いただいた教会伝道所は 106 件ありました。ご協力頂いた皆様には衷心より感謝申し上げます。調査対象母数は連盟加盟教会伝道所 320 件で、調査回答数は 38%の 122 件であることから、この調査結果をもってただちに連盟加盟教会の総意又は一定の合意を形成しているとは言えません。当委員会はこの調査回答者について制限していないことから、調査結果には教会回答、教役者回答、その他の回答を含みます。この調査への回答傾向としては、当委員会の掲題に関心がある、平素から問題意識をもっていた、当委員会の掲題と回答者の課題を関連付けて考えたなど多様です。連盟実務への関与度合いが高い回答者は肯定的な回答傾向を示すことや、同様に関与度合いが低い回答者は中立～否定的な回答傾向を示すことは自然です。このような多様な回答傾向を集計上、積極的／中立／消極的などに分類しているため、調査レポートはどちらかと言えば消極的(批判的)傾向を示します。このような偏差をご留意の上でご高覧頂きますようお願い申し上げます。

２．調査レポートの部

（１）調査項目１：　回答者はどのくらいの頻度で連盟定期総会へ出席しているか



調査項目１では、回答者が連盟定期総会へどの程度の頻度で出席しているかをお聞きしました。結果、毎年出席する回答者が 75%と大多数で、次にほぼ出席しない回答者が 12%、3～4 年毎に出席する回答者が 9%、1 年おきに出席する回答者が 4%です。この回答者内訳から、寄せられた意見は比較的連盟定期総会への参加実体験に基づいていると考えてよく、当委員会としては信頼性の高いデータであると考えています。

調査項目１の自由記述では連盟定期総会への出席(欠席)理由をお聞きしました。1 回答の記述に複数の内容が書かれている場合は回答数も複数になります(例えば 1 教会の回答内容に、費用とスケジュールの記載があればそれぞれ数えるため、都合回答数は 2 になります。要するに複数回答方式と同じような集計をしたということです)。

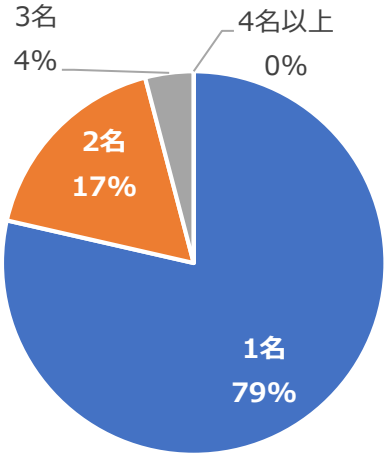
① 連盟総会へ出席(欠席)する理由で最も多い回答を要約すると「連盟及び加盟教会伝道所との交流から得られる生の情報と相互の励ましに対する魅力」が 106 件中 81 件あります。81 件の内訳は、依然期待する回答 52 件、この期待が薄れたとの回答が 29 件ありました。

② 次点の理由は「連盟加盟教会伝道所の責任である。権利行使の機会である」とする回答で 106 件中 45 件ありました。回答 45 件中 43 件は出席する積極的理由として挙げる一方、要約すれば「総会の必要性を感じない」といった消極的回答も 2 件ありました。

③ 同じく次点の理由に「費用がかかること」が 106 件中 45 件挙がりました。回答 45 件中 37 件は予算の制約で出席人数を減らすか出席を断念したことがあると解釈できます。会場に近いなどの理由で費用が障壁になっていないと推測される回答も 8 件ありました。

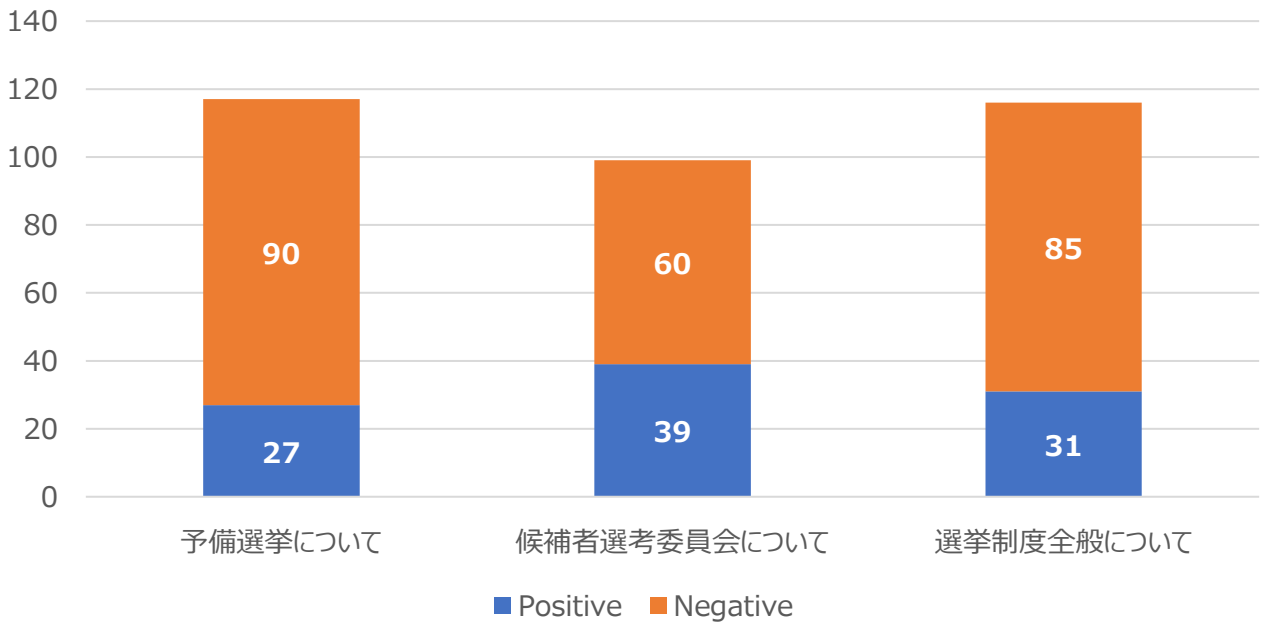
④ この他に、連盟総会の開催時期について、「平日開催は信徒が出席しにくい」といった回答が 106 件中 22 件、開催場所について「天城山荘は集まりにくい」といった回答が 7 件ありました。

（２）調査項目２： 連盟定期総会へ出席している回答者はおおむね何名の代議員を派遣しているか



連盟の総会規則第 2 条によれば、1 教会が派遣できる代議員の人数は 3 名となっています。それに対し実態は、「規定人数をできるだけ派遣」する教会が一部あるものの、ほとんどの教会が代議員 1 名としていて規約との間に乖離が見られます。代議員を 1 名とする教会の主な理由は、調査項目１と同じく「費用がかかること」が挙がっています。回答記述にも「調査項目１と２が同じでは」とご意見を頂いた通りで、本項目の背景は調査項目１と同様と解釈されます。

（３）調査項目３： 回答者は連盟選挙制度についてどのような見方を示しているか



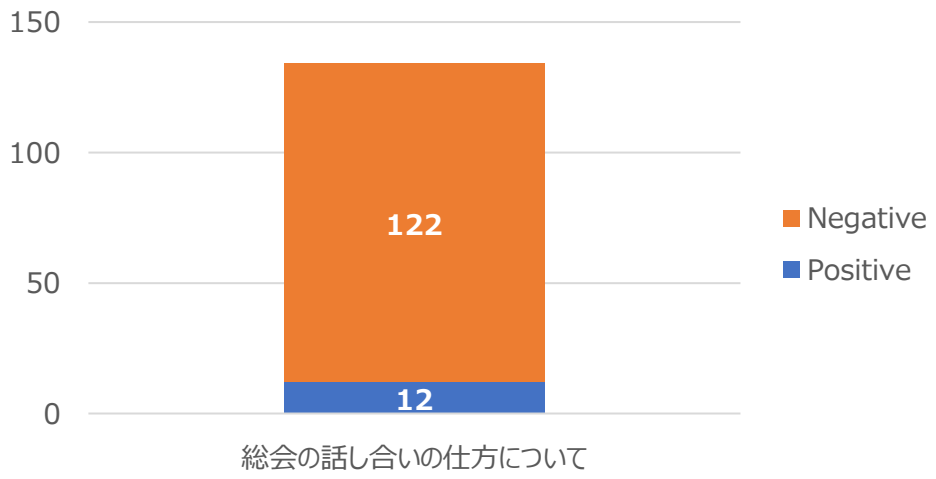
調査項目３の自由記述では連盟選挙制度についてお聞きしました。1 回答記述に複数の内容が書かれている場合、回答数量は複数になります(例えば 1 教会の回答内容に、選挙制度の課題について３つ記載があれば、それぞれ数えるため、都合回答数は３になります。要するに複数回答方式と同じような集計をしたということです)。従って、回答数量は連盟総会制度に対する傾向又は意見の数量を示しますが、全体評価がこの数量（比率）と等しくなる訳ではありません。

① 予備選挙についての主な意見としては、「現状維持を希望する」などとして積極的に評価する意見が 27 件。「どのような人材が求められているのか、どのような人材がどこに在籍しているのかといった、予備選挙の基礎情報の不足もしくは偏在」「過少な予備選挙の推薦母数」など制度設計、その他幅広い消極的評価意見が 90 件あります。

② 候補者選考委員会についての主な意見としては、「現状維持を希望する」などとして積極的に評価する意見が 39 件。候補者選考委員会制度について「候補者選考基準や選考範囲」「委員選考基準や選考範囲」など制度設計、公平性・透明性などについての消極的評価意見が 60 件あります。

③ 連盟選挙制度全般（本選挙）についての主な意見としては、「現時点では妥当な選挙方法であると感じる」などとして積極的に評価する意見が 31 件。「総会出席代議員の構成（偏り）が本選挙の結果に（偏在）影響を与える」「教会や本人の事情、被選挙人情報が乏しい代議員の事情を考慮しない選挙制度への批判」「地区理事の意義が実態に反映されない理事制度への批判」など制度設計、（代議員制に基づく本選挙の）公平性への疑問などについての消極的評価意見が 85 件あります。

（４）調査項目４： 回答者は連盟定期総会議事についてどのような見方を示しているか



調査項目４の自由記述では連盟定期総会の話し合いの仕方についてお聞きしました。1 回答記述に複数の内容が書かれている場合、回答数量は複数になります(例えば 1 教会の回答内容に、議事進行の課題について４つ記載があれば、それぞれ数えるため、都合回答数は４になります。要するに複数回答方式と同じような集計をしたということです)。従って、回答数量は連盟総会制度に対する傾向又は意見の数量を示しますが、全体評価がこの数量（比率）と等しくなる訳ではありません。

① 回答では、「総会牧師や理事が一年かけて祈り、準備しているのが窺い知れる」「議長団はよくやってくれている」「工夫されているからこそあの量の議題を議論できるのだと思う」「人数の多さから考えて現行では仕方ないと思う」などとして積極的に評価する意見が 12 件あるものの、消極的な意見は大幅に多い 122 件あります。その主なものを掲載します。

② 議案掲題や質疑応答に関する主な意見は次の通りです。「議案が多すぎて、十分に審議されていない」「連盟がどうあるべきかを考えるための会議のような気がする。教会のための会議になってほしい」「ディスカッションやディベートを行うといったより充実した内容にしなければならない」「意見・質問をしても議案書が全く変わらないまま採決するため議場でのやり取りに意味が見いだせない」

③ 議事進行に関する主な意見は次の通りです。「質問・意見・決議では事務的である」「議事進行を重視するあまり、発言を制限するきらいがある」「代議員というより個人の発言の場になっている」

④ このような賛否両論ある中で、次のように改善提案もありました。「議案が多いのである程度理事会に委託し、重要なものだけ取り上げるべき」「定例報告は極力理事会に権限を与え、議事時間を削減する」「計画についてより時間をかけ、意見を出し合って連盟の協力伝道に生かされるようになってほしい」「議案が多すぎるので、できるものは年間を通して文書投票を実施してはどうか」「分科会の形式を取って議論の時間が欲しい」

⑤ また他に、次のような意見もありますので留意したいと考えます。「ルールを守り発言の仕方を教会レベルで訓練して総会に臨む必要がある」「高齢者にとって長時間の話し合いは困難である」「ハラスメント的発言に関して、注意する必要があるのでは」「ハラスメント徹底断罪の雰囲気が強すぎる」

（５）調査項目５：その他の自由記述から回答者はどのような関心事をもって見ているか

調査項目５の自由記述では、連盟定期総会の会議場ついての意見が 35 件、連盟定期総会の開催スケジュールについての意見が 27 件、その他に分類する意見が 106 件ありました。

会議場についてのご意見（抜粋）です

① 「天城山荘で開催するならば、各教会代議員一人に」「東日本方面の天城山荘以外の場所(例えば都内)と、教会数の多い福岡で、毎年交互に開催できれば地方の諸教会はより多く代議員を派遣できる」「会場を都市のホテルや教会に移すのもよい」など、費用と時間の面などからより集まりやすい場所や、会議場・宿泊施設としてより快適な場所を希望する意見があります。

② また、「各地方連合でサテライトを作り、そこで総会の様子をオンラインで視聴できるようにする」「全国を５ブロックに分け、輪番制。Web 会議の導入で遠隔地の方々が参加できるようにする」など、新型コロナウィルス感染流行を反映して、会場分散の希望、インターネットシステム利用の希望もあります。

③ 「可能であればこれからも天城山荘での開催をお願いしたい」「天城山荘の経営を助ける意味で今後も天城山荘での開催を希望する」など、オフサイトミーティングとして天城山荘を希望する意見も根強くあります。

開催スケジュールについてのご意見（抜粋）です

① 「クリスマス前の 11 月よりは８月のほうが参加しやすい」「開催時期は 11 月で良い」など、開催月についてのご意見。

② 「牧師は水木金がよい。信徒は木金土が良い」「会社員は平日に休暇取得は困難」「信徒が出席しやすいよう土曜を含める動きがなくなり残念。一年おきでもよいので検討してほしい」など曜日についてのご意見。

③ 「会期の短縮を検討してほしい」「前泊なしの 2 泊 3 日、できれば 1 泊 2 日にしてほしい」など会期についてのご意見がありました。

最後に、総会全般についてのご意見（抜粋）です

① 「承認事項は理事会か地方連合会長会に委ねる」「楽しい総会になるように」「明るい話もしたい」「若い代議員を育てる環境」「各地域から二人選出し、他は中継から質問できるような環境を整える等、議論を深めるための工夫が必要」「総会が最も大事ならば、各教会一人分の費用は全額協力伝道予算から支出」「自由参加型共通課題のテーマに関する講演会」「テーマ別討論、学びの時に時間をかけたい。教会が宣教テーマを深める時間になる」「教会または地方連合提案の議案があってもよい」

② 「予算審査段階でさえ予算の組み換えを促すことができないことが問題」「予算審査委員会の審議を経てから正式な予算を組むのは現行のスケジュールでは困難」

③ 「民主的かつ「個」が重視されている。抜本改革の方向は危険なように思える」

④ 「疲労感が残る」

⑤ 「ビデオ電話を全教会に行き渡らせてほしい」「インターネット投票の活用」

⑥ 「総会への参加不参加は各教会の事情があると思う」「不参加によって連盟への姿勢を示している場合もあると思う」「参加教会が増えるように祈ることが大切」

さて、皆様はどう思いますか？

《ご参考》

今回のアンケートでは、開催場所についてのご意見も寄せられました。そこで、当委員会では皆様のご意見を参考にして、開催場所を移動した場合の総費用を試算してみました。試算条件は末尾に記載致します。

■ 最近の連盟定期総会出席者実績（人数・居住地方）を基に、仮に同規模の総会を他の都市で開催すると、どのくらい費用が割安、または割高になるのでしょうか？

■ 新型コロナウィルス感染流行を背景に、インターネット中継による礼拝や、教会活動が行われるようになりました。そこで、連盟定期総会をインターネット中継により行うケースも想定して試算に加えました。

試算結果

通常期　　第65回定期総会登録数に準じた場合

総会開催地	総会出席人数	交通費	宿泊費	会場費	**開催総費用**	1人当りコスト
東京	300	¥6,919,780	¥1,734,000	¥391,700	**¥9,045,480**	¥30,152
福岡	300	¥8,521,060	¥1,689,800	¥350,000	**¥10,560,860**	¥35,203
大阪	300	¥7,603,220	¥1,834,000	¥720,000	**¥10,157,220**	¥33,857
天城	300	¥8,620,980	¥2,820,000	¥204,000	**¥11,644,980**	¥38,817
分散開催	350	¥3,519,530	¥2,370,200	¥204,000	**¥6,093,730**	¥17,411

注：分散開催＝札幌、仙台、東京、大阪、広島、福岡、天城をネットワークで中継するとした場合。

- この試算はただちに実態を表すものではなく、開催場所毎のおおまかな傾向を見るための資料です。
- 都道府県別の登録者数は福岡県が最も多く 62 名でした。それでは福岡県で定期総会を開催するとどうなるのでしょうか。本州・北海道などからは前泊・後泊が必要なケースが増えますが、1 人当りコスト￥35,203 には前日・後泊費は含みません。民泊・教会泊などいろいろと節約する方法もあるかもしれませんが、当委員会の検討前提としては採用できません。総会期間を短縮してほしいとの意見がある中で、かえってトータルで長期化するケースが出ることが課題です。
- 東京で開催するとどうなるのでしょうか。他の都市と比較して 1 人当りコスト￥30,152 は割安に見えます。しかし、集まりやすい場所の優良な会議場を毎年確保することは事実上困難です（抽選・高額な費用など。試算は埼玉県営埼玉会館小ホールの金額を当てはめています。都内ではありません）。さらに福岡のように都心近くに居住する登録者も少なく、郊外・近隣県から会議場までラッシュ時間に公共交通機関を乗り継いで連日集合する方は想像以上に大変ですし、自家用車の方は連日渋滞に高額な駐車代もかかります。ミッションスクール施設をお借りできてもターミナル駅から徒歩数分というわけにもいきません。
- 福岡・大阪・東京で総会を開催できるサイズの会議場（バンケットルーム）と、多数の宿泊室を兼備するホテル会場は都市ホテルクラスになります。快適ですが高額で、経験から言えば開催総費用は天城山荘の場合を超えてしまうでしょう。上記試算は会議場＝公共施設、宿泊場所は都心近郊のビジネスホテル、連日会場まで通う想定です。福岡・大阪・東京などの他の会場で開催することは、天城山荘会場よりも多くの手配・手間・運動が必要であり、実現可能ですが現状と比較してメリットがかなり大きいと言えるかは疑問です。
- 新型コロナウィルス感染流行を契機に広まったインターネット中継が比較検討候補に入るならば、費用や時間などの負担は大きく軽減されます。実現するためにはいくつかの課題がありますが、有力な選択肢の 1 つと考えられます。

《試算条件》■交通は全て公共交通機関を使用。運賃は航空運賃のみ割引運賃。他は自由席通常運賃。自家用車は考慮せず。■宿泊費はビジネスホテルのスタンダードツインルーム 2 名利用。東京開催は東京＋神奈川＋千葉＋埼玉の登録者は自宅から通うため控除。同じく大阪＝大阪・兵庫・京都・奈良は控除、福岡＝福岡は控除。東京・大阪・福岡とも都心部から 20～30 分程度の距離。但し当期料金は感染症流行の影響でかなり割安なため、実際はより高額になる年度がある。■会場費は東京＝埼玉県さいたま市の埼玉会館小ホール、大阪＝大阪国際交流センター小ホール、福岡＝西南学院の関係を想定したため暫定値を入力、天城山荘＝HP の会場費一部を参考入力。分散開催は天城山荘に議場設置し 50 名が出席。他の各都市会場までの交通費・宿泊費を算入した。各都市会場は教会礼拝堂を借用するものとした。但しネットワーク品質や中継設備費用などのイニシャルコストは不算入。